

令和4年度 災害廃棄物の受入基準に関する 調査結果集計表の使い方について

2023年7月31日(月)

1

災害廃棄物の受入基準に関する調査とは

- 令和4年度に実施
- 調査の目的: 災害廃棄物処理を円滑に進めるため、発災後、災害廃棄物を広域的に受け入れることのできる可能性が高い施設をあらかじめ整理することを目的とした調査
- 調査方法: 電子メールによるアンケート調査(選択式及び記述式)
- 調査対象: 九州ブロック内の一般廃棄物処理施設及び産業廃棄物処理施設(※産廃処理施設は災害廃棄物の受入経験を持つ施設のみ対象)

2

調査項目

- 1) 基本的事項: 調査対象の自治体や事業者が管理する廃棄物処理施設の名称・所在地など
- 2) 災害廃棄物の受入支援の経験について: 平成29年度以降の大規模災害における受入支援の有無、支援の内容、支援を行ってわかった課題点など
- 3) 災害廃棄物の受入基準について: 今後の災害発生時において、災害廃棄物の受入可能性の有無、受入可能な災害廃棄物の品目、形状・寸法・荷姿・量・車両等の条件、混合状態での受入可否など
- 4) その他の条件について: 災害廃棄物の受入支援を実現するために必要な条件、処理単価の決め方など

3

調査結果(報告書より一部抜粋)

1. 一般廃棄物処理施設

アンケート調査に対し回答のあった自治体数は計 192 件であり、その内訳は、市町村 113 件 (58.9%)、一部事務組合等 79 件 (41.1%) であった (図 5-2-1 参照)。回答のあった一般廃棄物処理施設の種類の、図 5-2-2 のとおり、ごみ焼却施設 (124 件) が最も多くなっている。

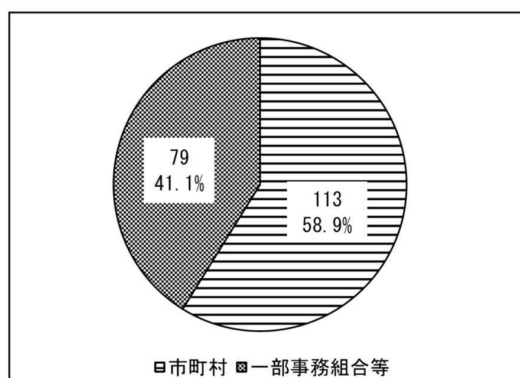


図 5-2-1 回答のあった自治体

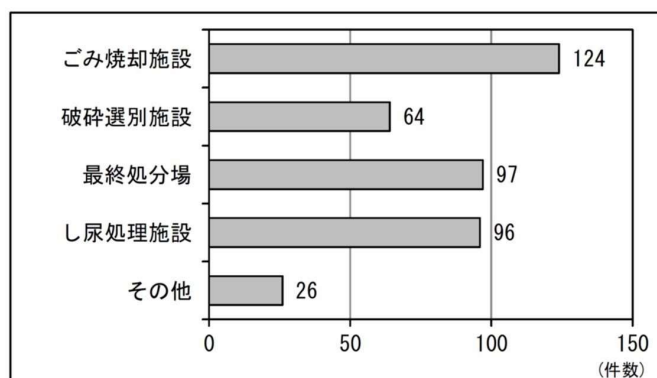


図 5-2-2 一般廃棄物処理施設の種類の種類 (複数回答可)

4

調査結果（報告書より一部抜粋）

2. 産業廃棄物処理施設

アンケート調査に対し回答のあった事業者数は 26 件であった。回答のあった産業廃棄物処理施設の種類の、図 5-2-15 のとおり、破碎選別施設（17 件）が最も多くなっている。

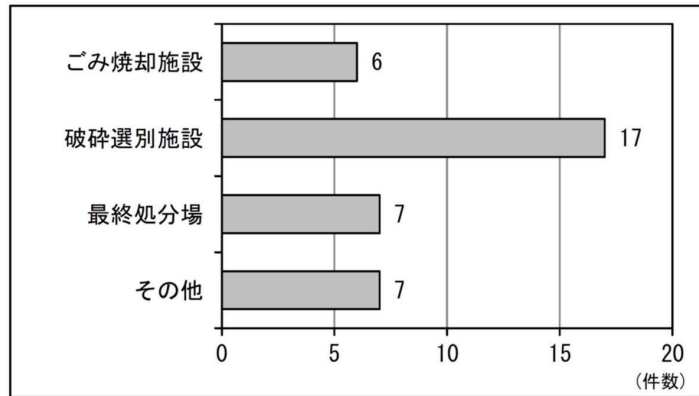


図 5-2-15 産業廃棄物処理施設の種類（複数回答可）

調査結果（報告書より一部抜粋）

（1）過去の受入支援等に関する実績について

1）災害廃棄物の受入実績

平成 29 年度以降に災害廃棄物の受入支援を行った経験については、「受入支援の経験がある」と回答した自治体が 27 件（14.1%）であった（図 5-2-3 参照）。

受入支援を行った災害としては、「令和 2 年 7 月豪雨（20 件）」が最も多く、次いで「令和元年 8 月の前線に伴う大雨（9 件）」、「平成 29 年 7 月九州北部豪雨（7 件）」の順であった（図 5-2-4 参照）。

なお、受入支援を行った廃棄物の種類としては、生活ごみ、木くず、たたみ等の可燃系廃棄物が多く挙げられた（図 5-2-5 参照）。その他の品目としては、し尿、浄化槽汚泥、がれき類、金属類などが挙げられた。

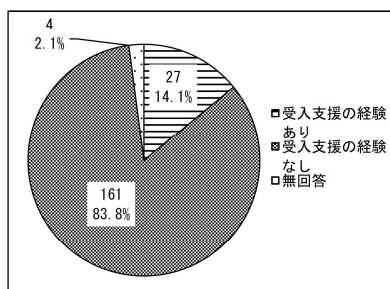


図 5-2-3 受入支援の経験

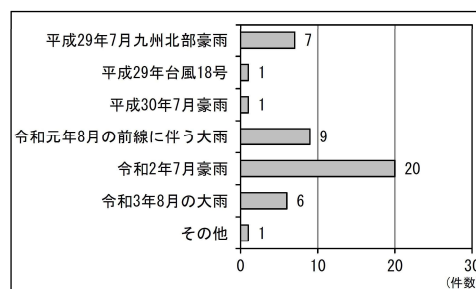


図 5-2-4 受入支援を行った災害（複数回答可）

調査結果（報告書より一部抜粋）

1) 災害廃棄物の受入可能性について

今後災害が発生した際の災害廃棄物の受入可能性については、78 件（40.6%）で「可能」と回答があった（図 5-2-10 参照）。ただし、「困難（110 件、57.3%）」あるいは無回答（4 件、2.1%）であっても、受入条件に関する設問に対して回答した自治体が複数あったことから、以降の設問回答については、災害廃棄物の受入が「困難」と回答したものの受入条件を回答した自治体を含めて集計した。

受入基準が通常時と災害時で異なるかどうかについては、39 件（20.3%）が「通常時と異なる」と回答した（図 5-2-11 参照）。

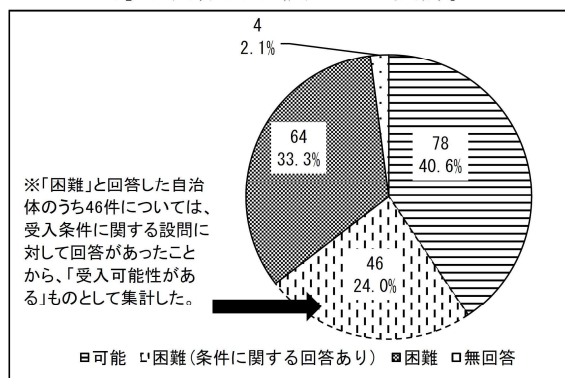


図 5-2-10 災害廃棄物の受入可能性

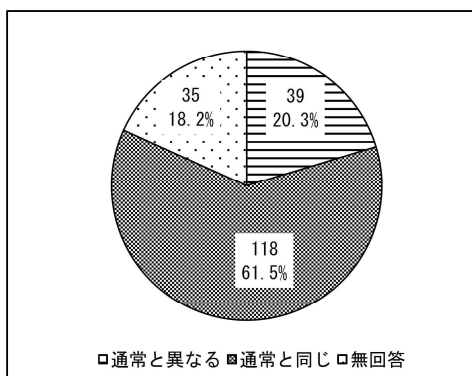


図 5-2-11 通常時と災害時と受入基準の違い

7

調査結果（報告書より一部抜粋）

2) 受入可能な品目

受入支援可能性がある廃棄物の品目は「生活ごみ（101 件）」が最も多く、次いで「木くず（78 件）」、「たたみ（75 件）」の順に多くなっていた（図 5-2-12 参照）。「その他（17 件）」の内訳はし尿・浄化槽汚泥（11 件）が多く、木製家具や布団などを挙げた自治体もあった。

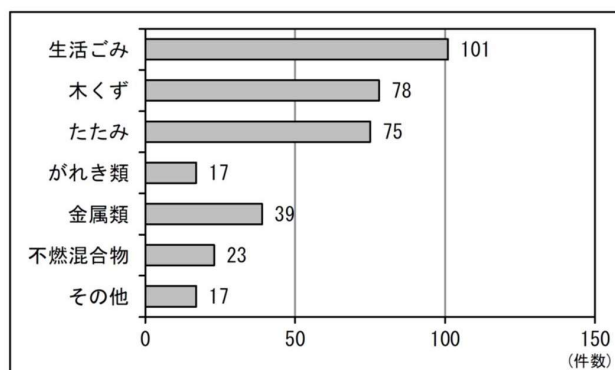


図 5-2-12 受入可能な品目（複数回答可）

8

調査結果(報告書より一部抜粋)

3) 受入条件

災害廃棄物を受け入れるための条件として、①形状、②寸法、③荷姿、④搬入量、⑤搬入車両の5項目それぞれについて確認したところ、以下のような傾向がみられた。

○生活ごみを受け入れる場合、搬入車両に関する条件を挙げた自治体が最も多く(84.2%)、具体的にはパッカー車(通常の生活ごみの収集体制と同様)を条件として挙げる回答が多かった。

○木くずを受け入れる場合、寸法に関する条件を挙げた自治体が最も多く(89.7%)、直径10cm以下であること、長さ1m以下であることなど具体的な回答が多かった。

○たたみを受け入れる場合、搬入量及び搬入車両に関する条件を挙げた自治体が最も多かった(68.0%)。また、形状の条件として水分を含んでいないこと、乾燥状態であることを条件として挙げる回答もみられた。

○がれき類及び金属類を受け入れる場合、搬入車両に関する条件を挙げた自治体が最も多かった(がれき類:64.7%、金属類:64.1%)。

○不燃混合物を受け入れる場合、搬入量及び搬入車両に関する条件を挙げた自治体が最も多かった(60.9%)。

9

調査結果(報告書より一部抜粋)

表 5-2-1 受入可能品目と受入条件

品目\条件	回答数 (図 5-2-12 より)	形状	寸法	荷姿	搬入量	搬入車両
生活ごみ	101 件	76 件 (75.2%)	74 件 (73.3%)	63 件 (62.4%)	79 件 (78.2%)	85 件 (84.2%)
木くず	78 件	58 件 (74.4%)	70 件 (89.7%)	29 件 (37.2%)	59 件 (75.6%)	49 件 (62.8%)
たたみ	75 件	31 件 (41.3%)	35 件 (46.7%)	27 件 (36.0%)	51 件 (68.0%)	51 件 (68.0%)
がれき類	17 件	10 件 (58.8%)	4 件 (23.5%)	5 件 (29.4%)	8 件 (47.1%)	11 件 (64.7%)
金属類	39 件	12 件 (30.8%)	13 件 (33.3%)	7 件 (17.9%)	23 件 (59.0%)	25 件 (64.1%)
不燃混合物	23 件	10 件 (43.5%)	10 件 (43.5%)	8 件 (34.8%)	14 件 (60.9%)	14 件 (60.9%)

10

調査結果集計表について

- 調査結果を取りまとめ、回答者別の回答内容を個別に表示できるように整理したもの
- エクセル形式で整理
- 構成員の皆様へは業務報告書等とともにデータが入ったDVDを送付（R5年3月末頃）
- シートは3種類（使い方、品目別受入条件、個別回答確認シート）

11

調査結果集計表の使い方

- 平時からの情報整理
 - ・どのような品目であれば受け入れてもらえそうか
 - ・近隣の自治体で受け入れ可能なところはあるか
 - 発災時の対応
 - ・受入先の速やかな決定、相談
 - ・必要な条件に合わせた分別区分の設定、前処理の実施
- ⇒円滑な災害廃棄物処理に寄与

12

調査結果集計表の使い方

【本ファイルの構成】

・ 使い方	本ファイルの使用方法を解説したシート（本シート）です。
・ 品目別受入条件 （一廃または産廃）	品目、条件の種類（形状、寸法など）、自治体名などの各種条件から絞り込みをかけるためのシートです。
・ 個別回答確認シート （一廃または産廃）	「品目別受入条件」のシートで絞り込んだ対象から、個別の具体的な回答内容を確認するためのシートです。

【各シートの使い方】

- ① 「品目別受入条件（一廃）」または「品目別受入条件（産廃）」のシートは、受入条件を確認したい品目、受入条件の種類（形状、寸法、荷姿、搬入量、搬入車両）等によってフィルタリングできます。
注）（品目別受入条件（一廃）のシートのみ）「受入可能性」欄は、本調査の設問13「災害廃棄物の受け入れ可能性」に対する回答を分類したものです。
「困難」は、本調査時に余力がない等の理由で災害廃棄物の受入が困難と回答した自治体です。
「可能」は、本調査時に災害廃棄物の受入が可能と回答した自治体ですが、実際の災害発生時に受入が可能かどうかは当該自治体へ確認してください。

The screenshot shows a spreadsheet with columns for '項目' (Item), '条件の' (Conditions), '自治体名' (Municipality Name), '条件' (Conditions), '整理番号' (Organization Number), and '突入可能' (Possible Entry). The first column contains a repeating list of '生活ごみ' (Household Waste). A large green callout box with black text points to the '整理番号' column header.

個別の回答を確認したい自治体（もしくは事業者）の整理番号（4ケタの数字）をメモしてください。

【取扱注意】

受入条件に関する調査票回答を確認したい自治体の整理番号（4ケタの数字）を入力してください。

自治体名		TEL	FAX	e-mail
#N/A		#N/A	#N/A	#N/A
廃棄物処理施設の種類	廃棄物処理施設の名称、所在地、所管			
ごみ焼却施設	名称	#N/A	#N/A	#N/A
	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A
破砕選別施設	所管	#N/A	#N/A	#N/A
	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A

整理番号(4ケタの数字)を入力することで、個別回答の一覧が表示されます。

【取扱注意】

※複数の施設を所管する自治体の場合、いずれかの施設に該当する条件が以下に表示されています。詳細は当該自治体に確認してください。

[illegible]

個別回答確認シート（一廃）

【取扱注意】

受入条件に関する調査票回答を確認したい自治体の整理番号（4ケタの数字）を入力してください。

自治体名

黄色セル部分に整理番号（4ケタの数字）を入力すると、以下に回答が表示されます。

※複数の施設を所管する自治体の場合、いずれかの施設に該当する条件が以下に表示されます。

受入可能な品目	受入可能かどうか	形状の条件	寸法の条件	荷姿の条件	搬入量の条件	搬入車両の条件
①生活ごみ	○	無し	長さ70cm以下	無し	50t※/日以下 なお、量は10枚（10畳分）/1搬入	計量器（7.5m×3m程度）に車輪が乗ること ・投入口がごみ搬入扉（6m×4m程度）に収まること ・ごみ投入場所の駐車スペースに収まること（10m×4m程度、10tトラックの大きさまで）
②木くず	○	無し	長さ2m以内、廃木材：直径20cm以下、生木：直径10cm以下	無し		計量器（7.5m×3m程度）に車輪が乗ること ・投入口がごみ搬入扉（6m×4m程度）に収まること ・ごみ投入場所の駐車スペースに収まること（10m×4m程度、10tトラックの大きさまで）
③たたみ	○	無し	長さ2m、幅1.4m以内	無し		計量器（7.5m×3m程度）に車輪が乗ること ・投入口がごみ搬入扉（6m×4m程度）に収まること ・ごみ投入場所の駐車スペースに収まること（10m×4m程度、10tトラックの大きさまで）

17

災害廃棄物の受入基準について

災害廃棄物の受入可能性	可能
災害廃棄物の受入基準は通常と異なるか	通常と同じ
混合状態でも受入れ可能か	困難（事前に仕分けされていることが必要）
備考	

昨年度の調査時では受入可能という回答の場合でも、実際の災害時に受入可能かどうかは確認が必要

※複数の施設を所管する自治体の場合、いずれかの施設に該当する条件が以下に表示されます。詳細は当該自治体に確認してください。

受入可能な品目	受入可能かどうか	形状の条件	寸法の条件	荷姿の条件	搬入量の条件	搬入車両の条件
①生活ごみ	○	無し	長さ70cm以下	無し	50t※/日以下 なお、量は10枚（10畳分）/1搬入	計量器（7.5m×3m程度）に車輪が乗ること ・投入口がごみ搬入扉（6m×4m程度）に収まること ・ごみ投入場所の駐車スペースに収まること（10m×4m程度、10tトラックの大きさまで）
②木くず	○	無し	長さ2m以内、廃木材：直径20cm以下、生木：直径10cm以下	無し		計量器（7.5m×3m程度）に車輪が乗ること ・投入口がごみ搬入扉（6m×4m程度）に収まること ・ごみ投入場所の駐車スペースに収まること（10m×4m程度、10tトラックの大きさまで）

18